

会長総括 2014～2015年度会長 吉田良尚



月日がたつのは早いもので、昨年7月1日に会長に就任させて頂いてから1年が経過し、今日は、今年度の締めくくりということで会長総括をさせて頂く日になりました。思い出しますと、確か3年前の秋に、今から考えますと悪魔のささやきのような「ちょっと何人かで行くから」という電話が牧さんからありました。その頃は、仕事にかまけて例会への出席率も良くない私でしたから、会長になれということなど到底予想もしなかったことでした。それから悩んだ末に、ロータリークラブでは、頼まれたら断ることは御法度なんだということも言われ、断り方も分からず承諾いたしました。すると、何と自分が会長の時には30周年の行事をやらなければならないということが分かり、右も左も分からない私はパニックになる寸前でしたが、会員の皆様のご協力で何とかこの日を迎えることが出来ました。本当にありがとうございました。ただ、会長をさせて頂いて良かったこともいくつもありました。特に、会長挨拶をするために、季節の移り変わりやニュースに注意を払いお話しをするという作業は、とても貴重な経験でした。

また、他クラブの会長、幹事さん達とも交流が深まり、人の輪が広がりました。このような機会を与えて下さった長崎西ロータリークラブの会員の皆様に心から感謝を申し上げます。

さて、私は、今年度のクラブの運営方針として、「持続的発展のために」をテーマに掲げさせて頂きました。この「持続的発展のために」をテーマに掲げたのは、初めのご挨拶でお話いたしました通り、ビジネスの面でも友人関係も、また、当クラブに関しても単に一時的な関係ではなく、将来にわたってその関係が続くように努力し、発展させて行くべきだと考えたからでした。このテーマは、1年間で結論が出るというようなものではありませんので、今後とも西ロータリークラブが持続的に発展できるよう、皆さんで協力して頂きたいと思っています。ところで、今期一番の行事は、何と言っても平成26年10月5日に開催した創立30周年記念式典、及びこれに関連する行事であったと思います。これらの行事、事業につきましては、江上実行委員長、松尾副実行委員長を始め会員の皆様のおかげで、30周年記念式典、祝賀懇親会、記念事業等を無事に終えることが出来ました。殊に、式典の2週間ほど前に自分の不注意で頭に大けがをしてしまい、皆様には大変ご心配をおかけしましたが、何事もなかったように終わることができましたのも、本当に皆様のおかげであると心から感謝しております。記念事業としては、長崎市内の3つの児童養護施設に記念品を贈呈するとともに、また、海星学園に記念品を贈呈いたしました。これは、当クラブが永年にわたって、青少年奉仕活動を継続してきたことの延長線上にあるものと理解しております。これらの永年にわたる奉仕活動に対して、児童養護3施設から感謝状を頂戴いたしました。これも先輩方がこれまで青少年奉仕活動に尽力してこられた賜物だと思っています。また、懇親会ではとても楽しい時間を過ごすことができました。演しものがてんこ盛りの懇親会になって、始まる前はちょっと多すぎるのではないかと心配したのですが、終わってみると、それぞれに好評で、西ロータリークラブらしく楽しい懇親会だったねと言われたものでした。さらに、記念事業の一環として、明治日本の産業革命遺産を巡る「さるく」を実施しました。私も参加させて頂き大変楽しく勉強させて頂きました。その後今年4月には、これが世界遺産に登録推薦され、世界遺産登録に1歩手前のところまで来るという嬉しいニュースもありましたし、この「さるく」の実現に尽力して下さった山口圭一会員には、その後浦和東ロータリークラブからこの「さるく」についての問い合わせがあり、今年5月には「三菱史料館」を案内して頂くというおまけまでつきました。

例会では、シンガーソングライターの方や地方自治体の方、また長崎大学医学部の方など、多種多様な方に来て頂いて卓話をして頂きました。大変興味深く勉強させられたお話しが数多くありました。担当されたプログラム委員会の方々大変ありがとうございました。また、例会時のピアノ演奏については、昨年度担当して下さっていた高木直前会長のお嬢様がおめでたということで、続けたいけれどもどうしようと思っているところに、今演奏して頂いている高橋かおりさんと山道由佳さんを紹介して下さる方がおられ、高橋さんと今道さんにピアノ演奏をして頂きました。お陰様で、例会がとても和やかで華やいだものになったと思います。ただ、例会の出席率は今年度も余り改善されなかったとのことであり、また、ロータリー財団への寄付は、目標が8400ドルのところ、4467ドル、米山記念奨学金への寄付は、目標896,000円のところ、764,000円といずれも目標を達成することが出来ませんでした。その要因はいくつか考えられるかと思いますが、結局私の会長としての力不足の結果であり、大変申し訳なく思っております。各委員会の行事としましては、平成26年7月17日には浦上養育院の児童を招待してのプロ野球フレッシュオールスター戦観戦、8月24日には、浦上養育院、明星園の児童を招待して、長崎市科学館において、プラネタリウム見学、ソーラーカー模型の作製を行いました。いずれもインターアクトクラブの皆さんの協力を得ておこないました。このような活動は、三宅会員が永年行ってこられ、当クラブも協力させて頂いているマリア園での毛布クリーニングとともに、青少年奉仕活動の一環として極めて大事な活動であると思いますし、インターアクトクラブの皆さんにも大変いい経験になっているのではないかと考えています。次に、平成26年8月18日から9月8日までスコットランドのアバディーンからトーマスグラバー記念奨学生アンドリュー・ツイディー君を主ホストクラブとして受け入れました。うち1週間は長崎RCの方で引き受けて頂きましたが、その外は、山口健太郎会員宅でお世話をして頂きました。山口会員のご家族には大変お世話になりました。

山口会員及びそのご家族には、改めて御礼申し上げます。





そして今年は、5月27日に面接をした結果、長崎大学経済学部3年生の古賀慎尚人さんを、当方からアバディーンにグラバー記念奨学生として派遣することになりました。古賀さんには、出発までの期間、長崎のことスコットランドのことを十分勉強し、アバディーンではいろいろなことを吸収してきて欲しいと思います。また、今年4月から米山記念奨学生としてベトナムから長崎総合科学大学に留学している、フィン・ガー・キャンイェンさん(通称がっちゃん)をお世話することになりました。カウンセラーとして市川会員が当たることになっています。市川会員今後ともよろしくお願いいたします。今年3月29日には、例年行っている桜の植樹を唐八景において行いました。今年は、長崎みなとRCからも4名参加され、植樹のあと、懇親会が開催されました。これは、長崎みなとRCとの合同例会の時に思いついて、長崎みなとRCの会長さんに呼びかけたことから実現したのですが、長崎みなとRCとの合同例会も3回を重ねており、友好関係も深まってきていると思います。今後どのような関係を構築していくのかをもう少し考えるべき時が来ているように思います。また、当クラブは、野口源一郎初代会長の方針が、「1に親睦、2に親睦、3、4がなく5に親睦」だったと聞いています。そのような親睦活動を今年も充実させて行って頂いたものと思います。西会が4回開催されたほか、ゴルフ同好会や銘酒同好会そのほか北西部会など様々な会合があるようで、今後も親睦を充実させて頂きたいと思います。私の希望としては、ウォーキング同好会の復活を切に望んでいますが、外にも何か同好会が出来ればいいなと思っていますところ。5月10日に開催された第9、第10グループの親睦ゴルフ大会では、久しぶりに3位入賞という結果を残しました。これは、ゴルフ同好会の川口幹事以下幹事さんの努力の賜物だと思います。来年こそは、平山会長エレクトに優勝スピーチをさせてあげられるよう皆さんで頑張りましょう。また、次年度のガバナー補佐には当クラブから三宅敏彦会員を推薦致しました。三宅会員はお仕事でご出張も多く、大変ご多忙を承知の上で、高橋会員、島崎会員、柳会員のご協力を得て、無理にお願いをし、何とかご了解頂きました。そのような経緯もございますので、会員の皆様には、7月から三宅ガバナー補佐を全力でサポートして下さるようよろしくお願い申し上げます。

次に会員増強ですが、高木前会長から昨年7月に引き継ぎスタートした直後には60名に復帰するのにも時間の問題と考え、何とか60名台に回復したいと公言してきましたが、残念ながら昨年10月末に南部博さんが職務多忙を理由に退会されました。ただ、嬉しかったのは、その際数名の会員のフォローもあって、南部さんからは時間ができたらまた入会させて欲しいという言葉頂いたことです。そして、今年になり、3月に若杉和敏さん、6月に石橋均さんが入会され、いよいよ60名にあと一人だと考えているところに、この6月に入会申し込みが舞い込んで来るという幸運に恵まれました。理事会での承認も終わりましたので、7月からは、会員数60名になることになります。これで、私も会員増強については、何とか皆様とのお約束を何とか果たすことが出来たのではないかと考えているところです。昨年7月以降に入会された石井さん、西さん、林田さんは、クラブにとってもなじんで頂いており、様々な活動にご協力頂いていることは大変嬉しいことです。石橋さんは、再々入会ですのでもともと、若杉さんや今度入会される方にも、早くクラブになじんで頂き、親睦や様々な活動に参加して頂きたいと思っています。我がクラブが持続的に発展していくためには、やはりその基盤として、相当数の会員の存在が必要です。そして、会員増強を図るためには、新会員を積極的に勧誘するとともに、当クラブが、一層魅力あるクラブにならなければならないと考えています。そのことが当クラブに入会したいと思って下さる方が一人でも多く生まれる素地になると考えますし、さらには会員の退会防止にもつながるものと考えていますので、来年度以降も是非よろしくお願いいたします。

最後に、30周年記念例会の時にお話を致しましたハチドリのひとしずくの話に関連して、一言申し上げておきたいと思います。個人的なお名前を出して恐縮ですが、先ほどもお話しいたしました三宅会員の毛布クリーニングの活動は、三宅会員には大変申し訳ないのですが、それはご自分でよかれと思ってこつこつ続けられてきたもので、ハチドリのひとしずくのような行為ではないかと思っています。ただ、そのことを続けられたことにより、当クラブも協力させて頂く機会を得、会員全体がマリア園に居住している子ども達のことを知り、そして問題意識が芽生え、さらに今後あちらこちらに支援の輪が広がっていった大きな力になっていくのではないかと期待しています。そのような意味でも、三宅会員の行為やこれを支援する私どもの行為は大変意味のある行為だと思います。会員一人一人が、小さなことでも、自分がよいと思うことをこつこつと実践していく。我がクラブは、そのような会員の集まりでありたいと思っています。山火事の森に運ぶハチドリのひとしずくは、決して無駄ではないと思います。最後になりますが、これまで会員の皆様、とりわけ日高副会長以下理事、委員長の皆様方、増崎幹事や事務局の中田さんのサポートがなければ何事もできなかったと痛感しておりまして、皆様に感謝の念で一杯です。本当に一年間ありがとうございました。

1年を振り返って 幹事 増崎進一

皆様には一年間、ありがとうございました。最初の半年間はどのような仕事をするのかよくわからずに進んでいて、後の半年間でどうにか追いかけてきたような状況でした。幹事になってから例会場には11時過ぎに入り準備等をします。その時に気付いたのは、会長、幹事経験者は、早目に来て色々準備をされています。そのように下支えを頂いて非常に勉強になりました。幹事と言う仕事をしないと気付かなかったことだと思っています。各委員会の事もお話したいのですが、時間の関係上プログラム委員会のことをひとつだけお話したいと思います。

今期が始まる時プログラム委員長が退会され非常に困りましたが、副委員長、委員でありました島崎さんと高橋さんが積極的に動かれ色々な方の卓話を手配して頂きました。また、会長の側で勉強したことは、お忙しい中例会を1度しか欠席されなかったことと、ニコニコを毎回されていたことです。あとは他クラブの記念行事に出席して色々なクラブの方とお話しすることが出来、自分の為にもなったと思っています。

